

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第1回姫路市立高等学校在り方審議会
2 開催日時	令和3年7月30日（金曜日） 14時30分～16時30分
3 開催場所	姫路市役所北別館 2階 中会議室
4 出席者	（出席者）姫路市立高等学校在り方審議会委員 14名 兵庫県教育委員会事務局 1名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、教育企画室長、学校教育部長、 総務課長、学校施設課長、教育企画室主幹、教職員課長、 学校指導課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人0名
6 次第	1 開 会 2 挨拶 3 委員委嘱 4 委員紹介 5 審議会概要説明 6 会長・副会長選出 7 諮 問 8 議 事 （1）国の動向について （2）兵庫県の取組について （3）生徒数の現状と見込みについて 9 連絡事項 10 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第1回姫路市立高等学校在り方審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>委員の皆様においては、御多用の中、第1回姫路市立高等学校在り方審議会に御出席いただき感謝する。</p> <p>現在、Society5.0社会に向けて技術革新が急速に進む一方、経済発展と社会的課題解決の両立を図る社会の構築に向け、様々な取り組みが進められており、教育を取り巻く環境も大きく変化している。高等学校においても、社会的な変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を持って、未来社会をしっかりと生き抜いていくための力を育てていくことが求められている。</p> <p>このような状況の変化に対応していくため、文部科学省は、令和3年3月、新しい時代の高等学校教育の実現に向けて、「各高等学校の特色化・魅力化」と「普通科改革」を示した学校教育法施行規則等の改正を行った。また、兵庫県においては「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書」の方針を踏まえ、「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を策定されようとしている。</p> <p>本市においても、これからの姫路市立高等学校の魅力及び特色づくりの方向性や、少子化を踏まえた望ましい規模・配置など、社会変化に合わせた取り組みを進める必要があると考えている。</p> <p>本審議会においては、委員の皆様の知見や様々なご経験に基づき、「姫路市立高等学校の在り方」についてご審議賜りたいと考えている。</p> <p>姫路市の子供たちや市民にとって、より良い高等学校教育となるよう、委員の皆様のお力をお貸しいただくようお願いする。</p> <p>3 委員委嘱</p> <p>4 委員紹介</p> <p>5 審議会概要説明</p> <p>事務局が資料1「姫路市立高等学校在り方審議会条例」及び資料2「審議スケジ</p>

	<p>ルール（案）」を用いて説明</p> <p>会議成立報告</p> <p>6 会長、副会長選出</p> <p>(会長就任挨拶)</p>
<p>会長</p>	<p>世の中全てがダウンサイジングになってきて、我々の世界でいうと、子供たちの数が減り、国や県も新たな方策を出してきている。そういう中であって、姫路の市立高等学校3校がどういう姿になっていくのかということである。</p> <p>どうしてもダウンサイジングになると、すべてが小さくなるということで、何か意気消沈するような感じになるが、今こそ、前向きに姫路でできることは何なのかということを姫路をよくご存じの皆様にお考えいただいて、姫路らしい高等学校を作れるようになれば良いと思う。</p> <p>私個人の希望としては、県ではできないようなものができるの良いと思うが、それはアイデア次第ということになる。これから1年近くになるがよろしく願います。</p>
<p>会長</p>	<p>7 諮問</p> <p>教育長から会長に諮問</p> <p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>
<p>会長</p>	<p>8 議事</p> <p>(1) 国の動向について</p> <p>事務局からの説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3「国の動向について」を用いて説明</p> <p>(2) 兵庫県の取組について</p>

会長	兵庫県教育委員会事務局からお話頂きたい。
兵庫県教育委員会事務局	資料4「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会報告書 概要」を用いて説明
会長	国の動向や兵庫県の取組について説明があったが、より理解を深めていくために委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。
委員	<p>国の動向について、1月に出された中央教育審議会答申の中でスクール・ミッションとスクール・ポリシーを策定することとなっている。スクール・ミッションについては設置者が策定することになっているので、姫路市教育委員会が策定することになると思うが、そのスクール・ミッションには、存在意義や社会的役割を示すことになっている。</p> <p>スクール・ポリシーについては、令和4年度に策定すること、設置者がやむを得ないと認める場合には令和6年度まで延長可能ということになっているが、そこでこの審議会のスケジュール感をお尋ねしたい。先にスクール・ミッションが示されることあるのか、それともこの審議会でその存在意義や社会的役割をおさえ、その後、スクール・ミッションを策定するのかというところの順序をお示しいただきたい。</p>
事務局	スクール・ミッションについては審議会と同時並行で進める必要があるが、完全な形ではこの中に入れ込むことはできないと思っている。同時並行で、決してベクトルの違ったものにはならないような形で進めたい。
委員	今回は市立高等学校について紹介していただけるようだが、市立高等学校の役割はこういうものが想定されて、社会的役割や存在意義はこういうものであるということ踏まえないと次の在り方や魅力づくりの提案はしづらいと思うが、そのあたりは色々な情報を出しながら進めていただけるということか。
会長	審議会が令和3年度末までなので、スクール・ミッションのベースとなるようなものはここで示す必要がある。

事務局	<p>市立高等学校の社会的役割については重要な部分だと考えているので、同時並行で進めさせていただきたいと思っている。</p>
会長	<p>兵庫県は広く、人口密集地もあれば、過疎地もその中間地域もあり非常に多様である。この第4学区も同様に、姫路が一番密集地域で、山間部などの過疎地域やその中間地域もある。そういった中、当然、これまで高等学校は人口の多いところに集中的にあるわけだが、兵庫県は過疎地に小さな学校を結構残してきており、今後は多少変わるかもしれないが、地域に高等学校は大事だと言っている。先程の県の取組の説明の中で、都市部の県立高等学校は規模に応じて統合を考えると言われたが、その際規模だけではなくて、他の基準はあるのか。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>都市部においては、望ましい規模として普通科・総合学科で1学年6～8学級としている。6学級を下回るようになると、多様な特色ある教育活動という部分で課題が生じるため、まずは望ましい規模を確保できるよう、今後の生徒数の動向を見ながら、例えば生徒の通学の利便性や統合する際の教育内容の継続・継承を踏まえながら考えていきたい。</p>
会長	<p>規模は普通科の場合6学級以上を基準とするということであるが、それは市立高等学校や私立の高等学校にも同じような協力を要請するのか。それともそれぞれの判断というスタンスか。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>基本的には県立高等学校の基準と考えているが、現段階において、県内の市立高等学校には6学級未満の学校はない状況となっている。今年度姫路市がこの審議会をもたれるということもあり、今後の学級数をどのようにしていくかについては、どういった方向性で市立3校を考えていくのかというご意見を伺いながら、我々としても配慮していきたい。ただ、私立の高等学校については、それぞれの学校での学級数の設定などがあるので、特に6学級以上ないといけないということは考えていない。</p>
委員	<p>県の資料では、平成元年度が一つの基準となっている。その年は子供の数が一番増えた状態で、この地域についても昭和51年に比べて3校増えている。今、生徒の数が非常に減ってきているが、当時は生徒数が増加し10学級規模の学校もあり、それ</p>

	<p>ではかなり学級数が多いということで、県立高等学校が新設されている。生徒数が増えた段階で新たな学校が作られた状態の中から生徒が減ってきた、減りだした段階では県立・市立とも均等に学級数を確保していくところには多少の無理があるのではないかと。新設校については、通学のことを考えると、あまり近隣に集中しなくても良いのではないかと。ただこれは、校長の立場での発言なので、もちろん最終的には市と県の話し合いの中で決められるかとは思いますが。</p>
会長	<p>生徒数が増えた時に県立は新しい学校を作ったが、市立は作らなかった。生徒数減少の際には市立高等学校も一律に減らすことはおかしいのではないかと。ということか。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>生徒数が増加した時に県立高等学校を増やした部分はある。こういった観点で学級数を減らしているかということについては、実際に中学校卒業生数の見込みによって大規模の学校から一律に減らすという作業をした結果、今の学級数の形になっている状況だろうと思う。ただ、昨年度県では望ましい規模と配置の考え方を示しており、今後は、実際に特色ある教育活動を行っていくうえで、この学校はどのような規模で行っていくのが良いかを考えながら募集計画も含めて考えていく。</p>
会長	<p>(3) 生徒数の現状と見込みについて 事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料5「生徒数の現状と見込みについて」を用いて説明</p>
会長	<p>中学校の卒業生徒数について、こういうこともぜひ認識していただいて、いろいろ考えていかないといけないと思うが、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。</p>
委員	<p>適正な規模が普通科、総合学科で6～8学級が望ましく、そうでないと特色ある教育ができないと言われたが、そのあたりもう少し詳しく教えていただきたい。</p> <p>以前姫路市でも、小中学校の適正規模・適正配置の審議会があつて、その中でも適正な学級数が出ていたが、私はどう考えても大きすぎるだろうと思った。その時に幼児教育を専門にされている委員がおられて、その委員が子供の社会性というのはたく</p>

	<p>さんの子供の中でもまれないと育たないとおっしゃっていたが、姫路市でも一番規模の小さな小学校から進学した中学校で毎年のように生徒会長を輩出しているようだ。小規模な学校では社会性が育たないということがこういうことから当てはまらないのではないかとということも申し上げた。</p> <p>40人学級というのは、法律上決まっていることなので、仕方がないところなのかもしれないが、ICTが発達している時代でもあるので、学校の規模によって生じる課題などについては十分克服できるのではないか。また、子供たちは非常に多様化しているので、きめ細やかなニーズに答えるような教育をしていこうと思えば、あまりこれまでの概念に縛られた規模などにこだわらない方が良いと思うが、そのあたりを教えてください。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>6～8学級が望ましい規模であるということを経験書としてお話をさせていただいた。実際に望ましい規模になるとどうなるかという、教員の人数が法定で決まっており、まず、学級の規模に応じて、教員の数が絶対数として異なってくる。例えば高等学校段階における学びを考えると、地歴公民であっても3科目ずつ、理科であっても4科目というような形になっている。それぞれ専門の教員を配置していくことを考えた時や、子供たちの進路に応じた指導をしていくことを考えると、子供たちの学びの面から、教員が多数配置される規模は必要と考えられる。</p> <p>部活動の選択というところにおいても、6～8学級規模の学校の場合、設置できる部活動数も運動部で10部以上となるが、4学級の学校になると、10部設置できる学校は少なくなってくる。また、1つの部当たりの部員数も少なくなってくるということもあり、部活動によっては大会に出られない人数の規模になることも考えられる。</p> <p>また、教員の仕事面で考えても、例えば校務分掌で言うと、教員で分担して割り当てていくが、規模が小さくなっていくと、教員が兼務をしないと対応できないということになる。部活動の指導においても、兼務があったり、例えば専門的な指導ができる先生がなかなかいなかったりという面が考えられる。そういったことを総合的に勘案して6～8学級ということを経験を頂いているところである。</p>
委員	<p>職業学科の3学級以上というのはどういうことか。</p>
兵庫県教育委	<p>職業学科については、例えば工業科・農業科については、職業学科の加配で教員が</p>

員会事務局	<p>増える。また、実習助手も加配されるということがあるので、教員数は十分増えてくる。3学級というのは少ないように感じられるかもしれないが、兵庫県は広く、それぞれの地域・産業に根差して工業科・農業科を配置しているという経緯がある。単に学科・学級規模が少ないから統合するということになると、それぞれの地域での特色ある工業や農業の学び、また地域産業との結びつきがなくなってしまうので、そういったところにも配慮して3学級としている。</p>
委員	<p>子供たちの集団の活気であるとか、社会性の涵養のため、ある程度の学級数が必要だろうという一方で、多様化した子供たちがたくさんいる中、きめ細やかな教育をするのであれば、少ないクラス数の方が良いという話になると思うが、普通科や総合学科の6～8学級が教育効果の面で妥当であるという研究成果が出ているのか教えてほしい。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>全国的にみると、6～8学級としているところもあれば、4～8学級としている都道府県もあり、研究上、望ましい規模と定められたものではない。それぞれの都道府県の地域実態や人口動態等によって適正だろうと有識者から御提言を頂いている状況かと思われる。</p>
委員	<p>高等学校を見直していく改革のスケジュールを教えていただきたい。先ほどの生徒数の将来的な見込みを聞くと、令和12年に540人減と2校分くらい生徒が減ることだが、今後何年先を見通して、いつから実施していくのかというスケジュール感を教えていただきたい。</p>
事務局	<p>県は、だいたい10年後には生徒数がこれくらい減るということを見通して、学級数を出していただいている。姫路市も同じように判断していくので、スケジュールとしては、同じようなサイクルでみていくのかなとも思うが、審議状況を踏まえながら考えていく。</p>
会長	<p>県に合わせるということか。</p>

事務局	<p>基本的な考え方として、県立であれ、市立であれ、子供たちの入学枠という部分では同じであるため、全然違うスケジュールで動くことは難しいと考えている。</p>
会長	<p>現在出生した子供の数はわかるので、そこまでは予測できる。ところがコロナもあって、生まれる子供の数はものすごく減っている。6～8学級が適正という基準はいつまでもつのか。10年も経てばこの基準も合わなくなることが十分考えられるのではないか。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>令和11年の生徒数の見込みを申し上げたが、それが学齢児童の人数ということで、昨年度に小学校1年生だった子供の数から中学校卒業生数を想定している。現段階で計画を策定しようと思っても10年先というのは非常に不透明な状況もあろうかと思うので、県の計画としては、おそらく5年程度を見通した計画になろうかと思っている。それ以降については、望ましい規模や配置についても改めて議論していただく必要はあろうかと思っている。</p>
会長	<p>6～8学級の教育効果はともかく、教員数が維持されないと教科が回せない。STEAM教育や教科横断的な学び、部活動の点から言うと、やはり、なかなか小規模化はできない。そうすると一層学校の数は減っていくということは認識しておかないといけない。</p>
委員	<p>コロナの中で出生数が減っていることは気になっているので、そのあたりのことを今後議論していきたい。6～8学級が望ましい規模という中で、生徒数の減少を見据えた時に教員数をどう確保するかという問題を考慮しながら、多面的に考えていく必要があると思っている。それと同時に、冒頭に会長がおっしゃった姫路らしさ、兵庫県にはできなくて、姫路市ができることは何だろうとずっと考えながらこの会に参加していたが、なかなか見つけられない。そうした時に諮問にあった活力と特色という言葉が気になった。この審議会の中で私たちが共有する活力や特色とはどういうものなのか。特色はカリキュラムや類型なのか、それに加えてレジリエンスなどを含めて生徒と作りあげていくものなのかという部分を踏まえながら、少人数でやるべきであれば学級数を増やしていくというところもあるだろうし、そのあたりも今後の議論の対象になれば良いと思う。3校が輝き、姫路市民がこの学校すごく良いよと今以上に</p>

	<p>言われるような高等学校改革になれば良いと思っている。</p>
副会長	<p>今委員がおっしゃったとおりかと思う。適正規模から入るのではなくて、国の動向として挙げられているスクール・ミッションをどうするのかというところから議論を進めていくべきかと思う。それで、小規模校でも小中高連携とか色々な連携をしながら充実を図っていくという方法もあるかと思うので、活力とはどういうものなのか、姫路市で市立高等学校がどういう存在であるべきなのか県立高等学校とどこが違うのかというようなベースの議論から始めていければと思った。</p>
会長	<p>ぜひそういうものも出していかなければいけないと思う。次回は学校の説明もあるので、今後、スクール・ミッションを意識した姫路市の学校の在り方、市立高等学校の在り方を示していただければと思う。</p>
会長	<p>委員の皆様は姫路市民の方も多いと思うがその立場からご覧になって、県立と市立はどこが違うと思われるか。</p>
委員	<p>私の子供も私自身も市立高等学校を卒業している。市立高等学校の良さとしては、元気、活気がある。県立にも良いところはたくさんあると思うが、市立にしかないよさは必ずあると思う。子供たちも親も市立高等学校に対して良いイメージを持っていると思う。これからも子供たちの数が減少していくが、時代を見据えて良いように変わっていけばと思う。</p>
委員	<p>先日、学校の先生方と地域の方との交流があった。その中のやりとりで、琴丘高等学校の通学路に草がたくさん生えているため、生徒に迷惑をかけないよう地域が草刈りをしておくことを先生に伝えるといった、地域密着型の温かい話があった。市立の場合には、高等学校とか中学校とか関係なく、均等に子供たちが学びを得られるような協力が自治会から得られるのではないかと感じた。</p>
委員	<p>間違っていたら修正していただきたいが、旧制中学校ができた時、基本的にはそこには男子が通っていた。当時の社会的ニーズから男子が育てられていたが、地域としては子女教育もしなければならぬ。市立3校のうち2校はそのような中から始まっ</p>

	<p>ているのではと思う。地域のニーズで女子の教育を進めよう、そういったものが兵庫県内にたくさんでき、学制改革により高等学校に移行し、市立として継続してきたように私は認識している。そういったものがまず市立高等学校の存在意義として過去確かにあったのではないかと思います。現在の人数配分は分からないが、市立高等学校には女子生徒がかなり長い間たくさん入ってきていたのではと思う。そういったものが、今のミッションに合うかどうか分からないが、学校としてのこれまでの意義をしっかりと押さえてやっていくべきではないかと考えた。</p>
<p>会長</p>	<p>女子生徒が多いということは、そういう伝統や成り立ちが今も生きているということか。それはそれで大きな特色であり、確かにそういうところも考慮する必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>中学校の立場から言うと、選択肢が多い方が子供たちにとってはありがたい。進路指導の様子をみていると、市立、県立、私立いずれにしる特色についてアピールをしっかりとしている高等学校については、やはり生徒の食いつきが違う。</p> <p>普通科についてはどうしても成績で考えてしまいがちだが、それでも自校の特色などを進路説明会でお願いした時に、すごくうまくアピールされる学校もあるし、そういった学校は子供たちが学校に行ってみたいと思うようなところもある。進路説明会に来ていただいた様子を見て感じるのだが、私立は新しいことを取り入れるスピード感であるとか、アピールの仕方であるとかがすごい。公立の場合難しいところもあるかもしれないが、公立ならではのできることや市立高等学校ならではの特色をここで考えていくべきではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局中心に考えないといけないが、ぜひそういうアイデアを出していただきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>3校とも教頭の経験があるので紹介するが、市立高等学校にはそれぞれコース等が設置されている。姫路高等学校は探究科学。今は探究活動が高等学校教育の在り方の一つの指針となっており、それを地域の小学校との連携や、場合によっては県立大学との連携という形で進めている。</p> <p>琴丘高等学校については、当初は英語科を設置し、国際文化科に改編して今に至っている。当初は海外に目を向けていこうと謳っていたが、市立高等学校でもあるので、</p>

地元で学びが根付くように、国際文化科の学びを地元で活かすという視点で取り組んでいる。姫路であれば世界文化遺産である姫路城があり、海外の人がたくさん来る。インバウンドに対応できるようにということで、琴丘の特色はそういう形で市民に根付いていると思う。

飾磨高等学校は健康福祉コースを設置しており、高齢化が進む中、介護実習などを行っている。それぞれの学校がこの地域のニーズに合わせてコースを設置しており、存在価値がある。進路説明会でもアピールさせてもらっている。そのような学びが普通科にも波及していくという形で、飾磨高等学校については高齢者に対する思いやりの気持ちや、琴丘高等学校の場合は国際理解ということもあるので、大学との連携やオンラインで台湾との交流を図っていったりしながら、それが全体の特色にもつながっている。姫路高等学校は探究が主になっているので、探究科学コースでの学びが校内に広がっており、現状私が感じているところでは、3校ともがそれぞれ良い特色がある。後はこれを今後どのような形で発展させていくのか、場合によってはそれをまとめあげていくとか。場合によっては学校を統合しなければいけない状況であってもその3つの学びはうまく継続させていただきたい。

委員

そういう議論を深めていかないといけない。1回目なので幅広く議論していいと思う。

委員

先ほどの、市民から見ると県立高等学校と市立高等学校の違いはどのようなことかということについてだが、中学校を訪問した時に市立高等学校をどのように思われるか何人かの校長に聞いたことがある。その際、県立に比べてフレンドリーという言い方をされた。私は県立から市立の方に移ってきたが、地元の人との距離感が非常に近い。中学校や小学校との連絡もあるので、教育委員会との距離感も非常に近い。県立は非常に離れている感覚があるが、市の教育委員会との距離感が近いので親近感もある。

規模ということで6～8学級と言われるが、学級数が先走ると発展的統合ということをいわれているのではないかと心配に思う。市立3校の特色をどうするのかをメインで考えていただきたい。学級数と言うが35人学級にするのか、30人学級にするのかなど方法はあると思う。その辺のところも含めて数字ばかりが先走りしてしまうと私たちは非常に困ってしまう。どのような特色づくりをするかということベースに

	<p>おいて話をさせていただくとありがたい。</p>
会長	<p>数字だけにこだわるなという発言であった。それに反するが1つだけ確認しておきたいことがある。市立高等学校が占める生徒の割合は22%で推移しているが、これはたまたまの結果なのか。</p>
兵庫県教育委員会事務局	<p>市立高等学校と県立高等学校の比率については、そのように定めたことを聞いたことはない。</p>
会長	<p>あえて言うが、姫路は特色の一つを出すために、市民に非常に身近という意見があったので、その身近さを生かし、3校あるので数を減らすかは別にして、規模の大きい学校にする。そうすると学級数でも生徒数でも今より比率が高くなるかもしれないということがあり得る。財政の問題もあるがそういう選択もでてくる。</p>
委員	<p>22%というのは、均等に県も1つ減らし、市も1つ減らしということで、そのままになっているのだと思う。校長としては、魅力や特色を出すには教員の数が必要になってくるので、6～8学級、できたら8学級以上と考えるが、8学級以上でも構わないということはあるのか。県としては6～8学級なのか。</p>
会長	<p>県は気持ちの中で6～8学級にしてということはあると思うが、それを強制することはできないだろう。市の判断になると思われる。</p>
委員	<p>魅力とか特色とかを出そうと思えば、きめ細やかな指導にしても人がいるので、そうすると極端に言えば10学級とか、そんな学校の方が活力を出せるのではないかと思う。</p>
会長	<p>今日は1回目なので色々なことを考えて良いと思う。今日は色々な情報やご意見を頂いたということで、今後につなげていきたい。</p> <p>時間も迫ってきたので、本日の議論はこれまでとする。</p> <p>議事を事務局にお返しする。</p>

事務局	9 連絡事項 次回、第2回審議会は8月17日（火）15時からを予定している。
事務局	10 閉会 以上で本日の審議会を終了する。